

【参 考】

○田辺地方医療対策協議会

田辺保健所管内における医療体制に関する円滑な運営を目的に、昭和 58（1983）年に設立された協議会で、田辺保健所管内の行政機関、医療機関、医療関係団体、消防機関の代表者によって組織されています。

○西牟婁地域保健医療福祉調整本部

災害医療コーディネーター、医療機関、消防、DMAT 等の外部支援組織、福祉関係者などから構成され、地域内での応急医療体制及び福祉支援体制の構築、保健医療福祉活動チーム等の派遣調整、保健医療福祉活動に必要な情報の整理、情報連携及び分析、その他保健医療福祉活動に係る総合調整を行う組織。
（令和 8 年 1 月以降正式運用）

○災害派遣医療チーム（DMAT：ディーマット）

医師、看護師、救急救命士などの医療関係者と事務員等で構成され、地域の救急医療体制では対応出来ないほどの大規模災害や事故などの現場に急行する医療チームのこと。

○災害時健康危機管理支援チーム（DHEAT：ディーヒート）

行政機関の公衆衛生分野の専門職及び業務調整員で構成され、被災都道府県庁の保健医療福祉調整本部及び保健所において指揮調整機能を支援するチームのこと。

○日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT：ジェイラット）

理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー等の医療福祉関連職から構成され、避難所等において、災害に関連した身体機能、生活能力の低下予防のため、高齢者や体に不自由のある方の健康的な生活と活動をサポートする団体。

○机上情報伝達訓練（ロールプレイング方式）

現実にかかる場面を想定して、複数の人がそれぞれの役を演じ、疑似体験を通じて、ある事柄が実際に起こった時に適切に対応できることを目的とした学習方法の一つであり、状況の付与を行うコントローラーと実際に演習を行うプレイヤーとに分かれて実施します。

本訓練でのコントローラーは、それぞれの機関ごとに設置され、時間管理と状況付与カードの投入、処理や対応状況をチェックします。プレイヤーは、出された状況付与に対して、関係機関と連携しながら、対応方法を協議します。

○これまでの訓練実施状況について

実施年度	開催場所	訓練想定 （発災からの経過日数）	参加機関数	参加人数
平成 24（2012）年度	南和歌山医療センター	2 日目	23 機関	90 名
平成 25（2013）年度	南和歌山医療センター	3 日目から 1 週間程度	21 機関	80 名
平成 26（2014）年度	紀南病院	4 日目	22 機関	100 名
平成 27（2015）年度	南和歌山医療センター	4 日目	27 機関	110 名
平成 28（2016）年度	西牟婁総合庁舎	4 日目	27 機関	100 名
平成 29（2017）年度	紀南病院	2 日目	28 機関	120 名
平成 30（2018）年度	南和歌山医療センター	4 日目	27 機関	120 名
令和元（2019）年度	南和歌山医療センター	3 日目	26 機関	130 名
令和 6（2024）年度	西牟婁総合庁舎	8 日目	31 機関	140 名